

町民と町長が まちづくりで意見交換

町民と町長が、まちづくりについて意見交換する、まちづくり懇談会が全11行政区で開催されました。植田満町長が町政執行方針を、佐川純副町長と熊田義信教育長が予算概要の説明をしたあと、参加者から多くの質問や意見が出されました。今回は、その主なものを紹介します。

開催日程、参加者

開催日	行政区	参加人数(前回)	開催日	行政区	参加人数(前回)
4月12日(月)	徳富区	18名(21名)	5月11日(火)	橋本区	20名(22名)
4月26日(月)	大和区	18名(34名)	5月12日(水)	青葉区	38名(27名)
4月27日(火)	弥生区	8名(14名)	5月13日(木)	中央区	17名(8名)
4月28日(水)	花月区	28名(17名)	5月14日(金)	みどり区	26名(18名)
4月30日(金)	総進区	32名(16名)	5月17日(月)	文京区	30名(25名)
5月7日(金)	菊水区	17名(19名)	計		252名(221名)



地域公共交通

参加者 昨年度の地域公共交通の実証運行のバスは、どの辺を何時ごろ通るのかわからず、利用しづらかった。また、乗車する場所も役場前だけでは、利用しづらい。パンフレットを配布したが、分かりづらいとの指摘もあった。本年度は、分かりやすいパンフレットにする予定。また、昨年度の実証運行は、中央バスのような定時運行ではなく、予約運行となっていることもあり、分かりづらかったかもしれない。

公営住宅

参加者 公営住宅入居者の行政区活動への参加が少ない傾向にある。行政区の仕組みを知らない人が多いと思う。公営住宅担当者から説明するなど、何か良い手立てはないか。

町 公営住宅の入居時に、担当者から、区長や町内会長の氏名と連絡先など、情報の提供を行っているが、引き続きしっかりと説明できるようにしていきたい。地域で独自に作成したパンフレットがあれば、入居時に配布するので、役場に預けてほしい。

農産物ブランド化

参加者 東京でアンテナショップを開くということだが、町内にはそういったものがなく、町民が自分たちの町の名産が何かも分かっていない状態にある。

町 すばらしい農産物が生産されているが、地元ではなかなか消費されていない。

農協店舗内の新十津川コーナーでPRしていきたい。ただ、安心感がある分だけ価格は高くなることが予想される。

参加者 農産物のブランド化事業でブランド化する農作物は何か。

町 基本的には農業者所得の増加が目的で、正式な品目は決定していないが、例えば生産量が増えているトマトなど、今年度中にブランド化する品目を決定したい。安全安心のシールを作成し、新十津川の農産物をPRしていきたいと考えている。

ブランド産品推奨マーク

(裏表紙参照)



観光

参加者 本町のシンボルともいえる、ふるさと公園、サライ、グリーンパークなどに他町村から多数のお客さんが来てくれる。グリーンパークには露天風呂が無いので残念がる声を聞く。露天風呂を町長の力（助成金など）で造ってはどうか。

町 グリーンパークの温泉は加温しているため、ランニングコストがかかる。町で露天風呂の建設費用を支援したとしても、その後は経営者が運営経費を負担することになることから、グリーンパークとしては経営面から試算して厳しいと考えているようだ。グリーンパークから話があれば協議には応じる。

のだが、何か話は来ているのか。また、町として対応していく考えはあるのか。

町 ピンネ農協の中長期計画では、農地だけではなく担い手についても触れている。町としても、担い手と農地の集積はなんとかしたいと思っている。その点についての考え方は、組合長と一致している。農業者の42%が60歳以上。後継者対策や法人化対策を行ってきたが、成果は上がっていない状況。農業公社をつくり、担い手の育成、農地の集積に対応できないかと考えている。今後、公社の立ち上げについて検討し、今年度中に道筋をつけていきたい。

農業関係

参加者 ピンネ農協の中長期計画に、遊休農地に対応するための仕組みを作るということが載っていた。改良区や町と連携するというこ

指定管理者制度

参加者 指定管理になった施設は、町民生活に直結するものだ。かおる園、保育所、尚武館、青年会館、そして体育施設。メリットがあるから指定管理にしたはずなのに、町民にはメリットが見えてこない。委託料を払

った上で、売り上げの不足を町が穴埋めするならば、少なくとも財政的にはマイナスではないか。

町 かおる園とよしの園は完全民営化なので指定管理ではない。指定管理者制度は、利用者からの要望に対して、柔軟に対応できることが最大のメリットである。町で運営していたときよりも費用は減少している。これまでの収支の差額を勘案して、委託料を示したうえで指定管理者を公募している。赤字が出た場合は、指定管理者の責任となる。

アートの森

参加者 アートの森の詳細を

教えてほしい。彫刻体験というが、交通の便が良くない所に習いに来る人がいるのか。美唄にも同様の施設があるが管理費に膨大な予算が掛かり赤字のようだが、アートの森は誰が管理するのか。

町 3校が閉校となり、それぞれの地域に跡地利用の意

見を聞いたが、吉野小だけは提案がなかった。その後

に滝川市出身の五十嵐威暢先生から、ロケーションや施設規模の面で活用したいとの提案があり、彫刻交流施設として利用することとなった。彫刻という名称はついているが幅広い文化、彫刻、デザインの発信施設として町民の作品展示も盛り込んでいきたい。管理はNPO法人を募集し審査の上、6月議会で決定するが、五十嵐先生関連の運営団体を考えており、今後5年間は町からの管理費はゼロとしている。改修は補助金や過疎債を利用することから、一般財源はあまり使わない。美唄や札幌の文化施設などと相乗効果を図っていきたい。

農業高校

参加者 子どもの数が減る中で、道立高校の学級減の話が新聞に載っていたが、妹背牛のように廃校の話が出る前に存続していけるような行政のサポートをしてほ

しい。

町 学生が色々な資格を取れるように応援している。子どもたちの幅広い活動で良いPRにもなっている。小学校でも農高の畑を借りて作物を作っていて、いろいろな連携がされていることで良いPRになっている。農高の先生方も一生懸命PRしてくれているので、各方面と連携を取りながら持続していけるよう努力していきたい。

